

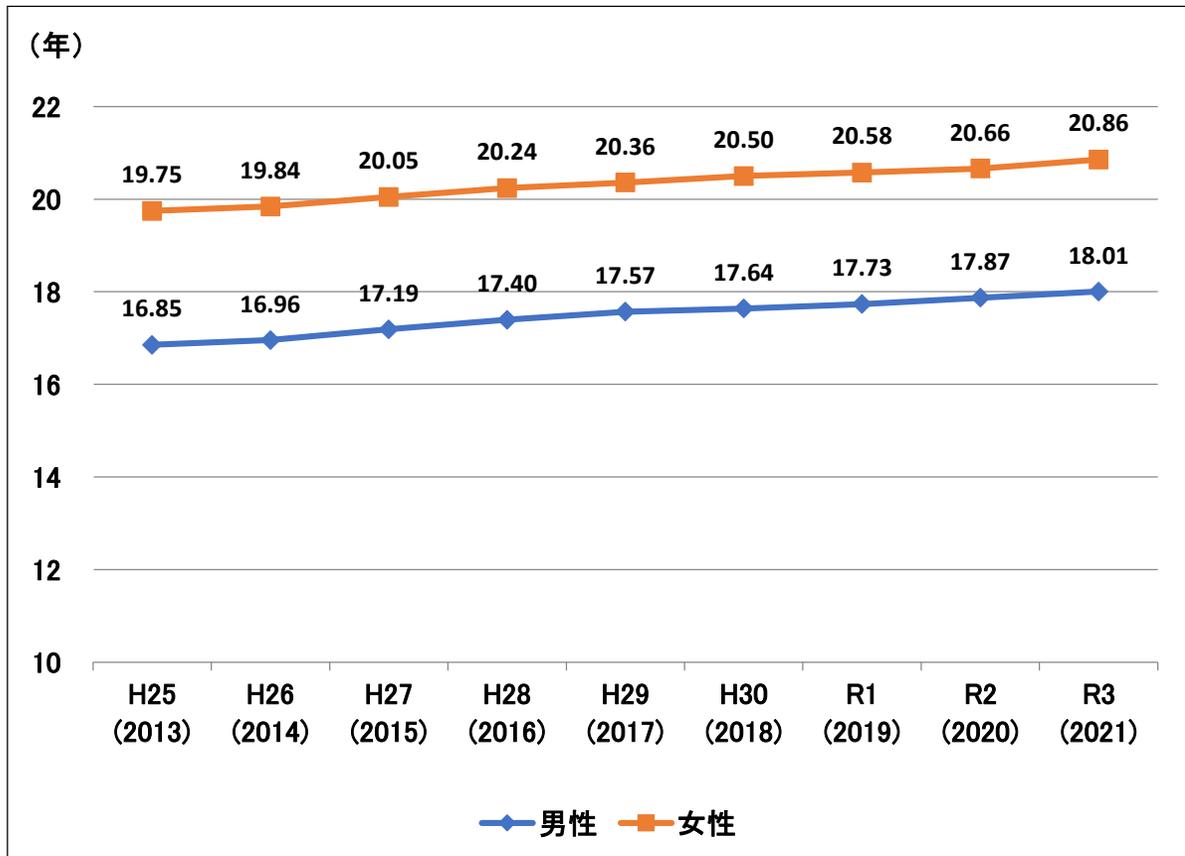
第2回 埼玉県健康長寿計画推進検討会議	資料2
令和5年9月12日（火） 18：30～	

埼玉県健康長寿計画(第4次)(素案)～現状と課題～について

(1)健康寿命の延伸と健康格差の縮小

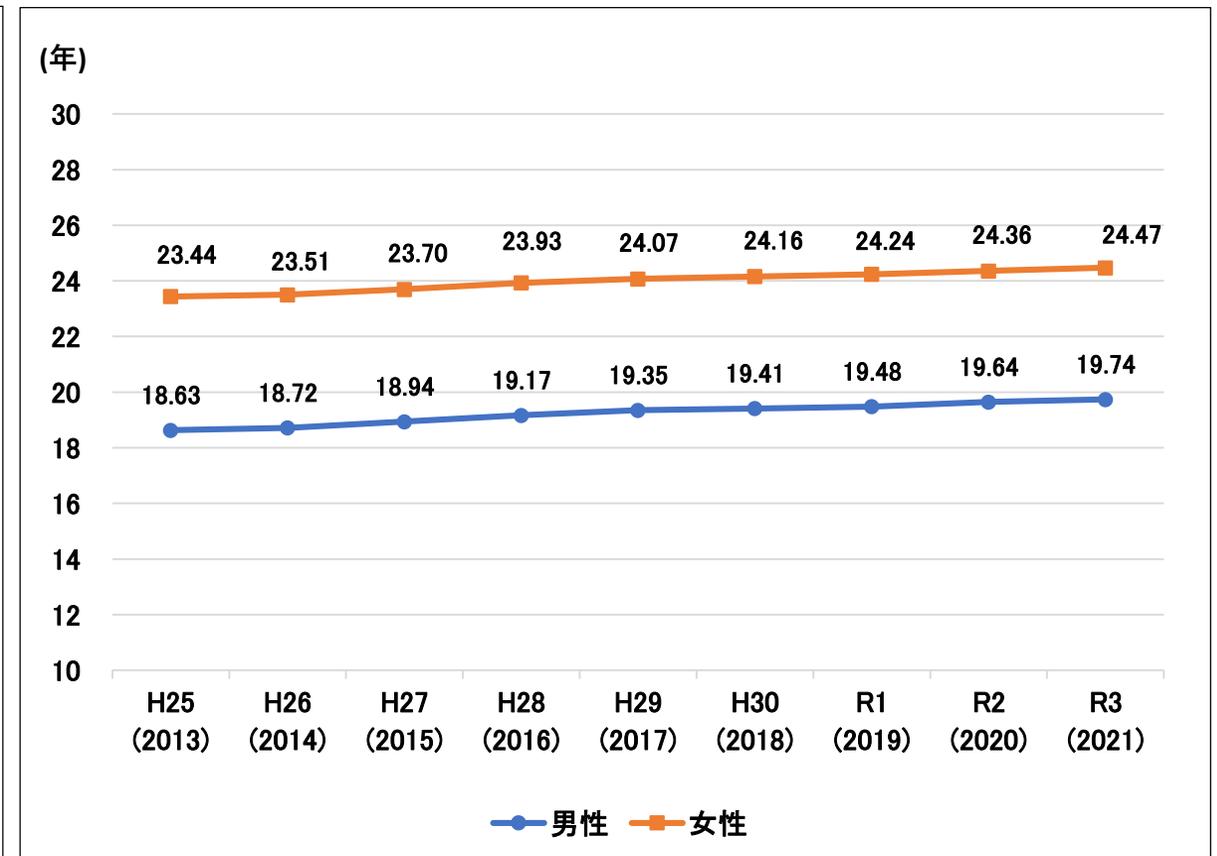
現状

【図表1 埼玉県健康寿命(埼玉県算出, 65歳に到達した人が「要介護2」以上になるまでの期間)】



資料: 埼玉県健康指標総合ソフト(埼玉県衛生研究所)

【図表2 埼玉県65歳平均余命の推移(埼玉県算出)】

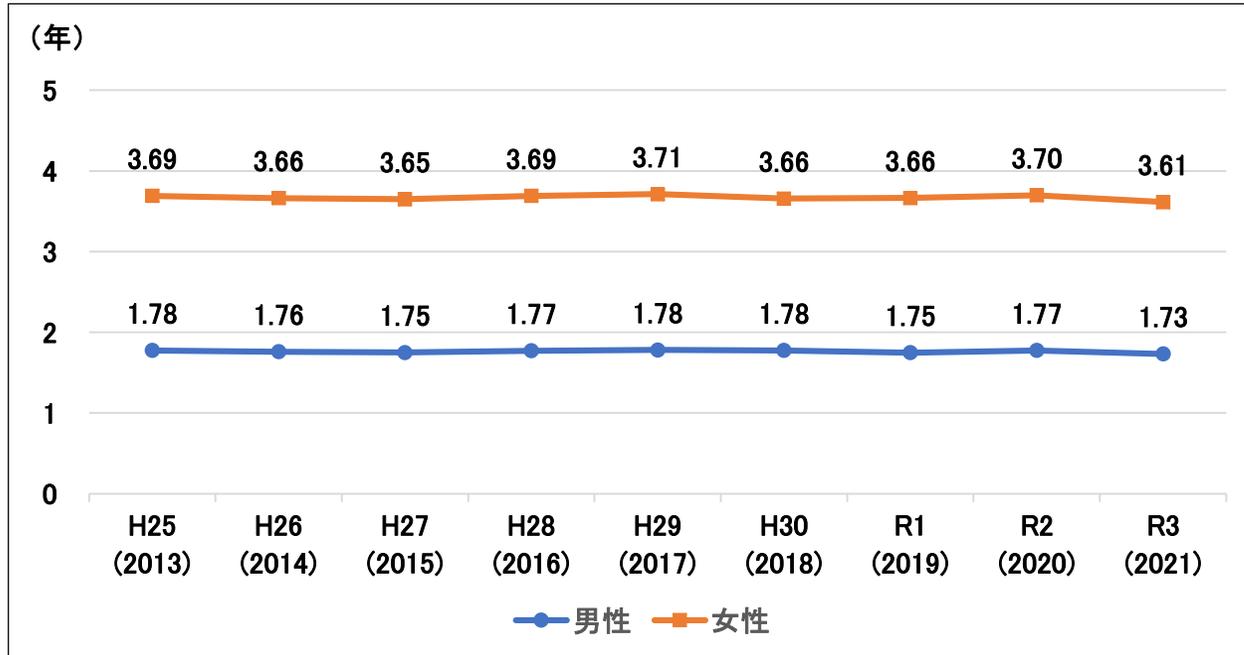


資料: 埼玉県健康指標総合ソフト(埼玉県衛生研究所)

(1) 健康寿命の延伸と健康格差の縮小

現状

【図表3 埼玉県の65歳健康寿命と65歳平均余命の差(埼玉県算出)】



資料: 埼玉県の健康指標総合ソフト(埼玉県衛生研究所)

【図表4 埼玉県健康長寿計画(第三次)の指標から抜粋】

指標名	策定値 (2016年)	最新値 (2022年)	目標値 (2023年)
健康格差の縮小 (各二次保健医療圏単位 の健康寿命の差の縮小)	男性 1.25年	男性 1.22年	縮小傾向
	女性 0.83年	女性 0.70年	縮小傾向

【図表5 県内各二次保健医療圏の健康寿命(令和3年)(埼玉県算出) ※一部抜粋】

保健医療圏	圏域内市町村	男性	女性
西部	所沢市、飯能市、狭山市、入間市、日高市	18.49年	21.19年
南部	川口市・蕨市・戸田市	17.27年	20.49年
(県全域)		18.01年	20.86年

資料: 埼玉県の健康指標総合ソフト(埼玉県衛生研究所)

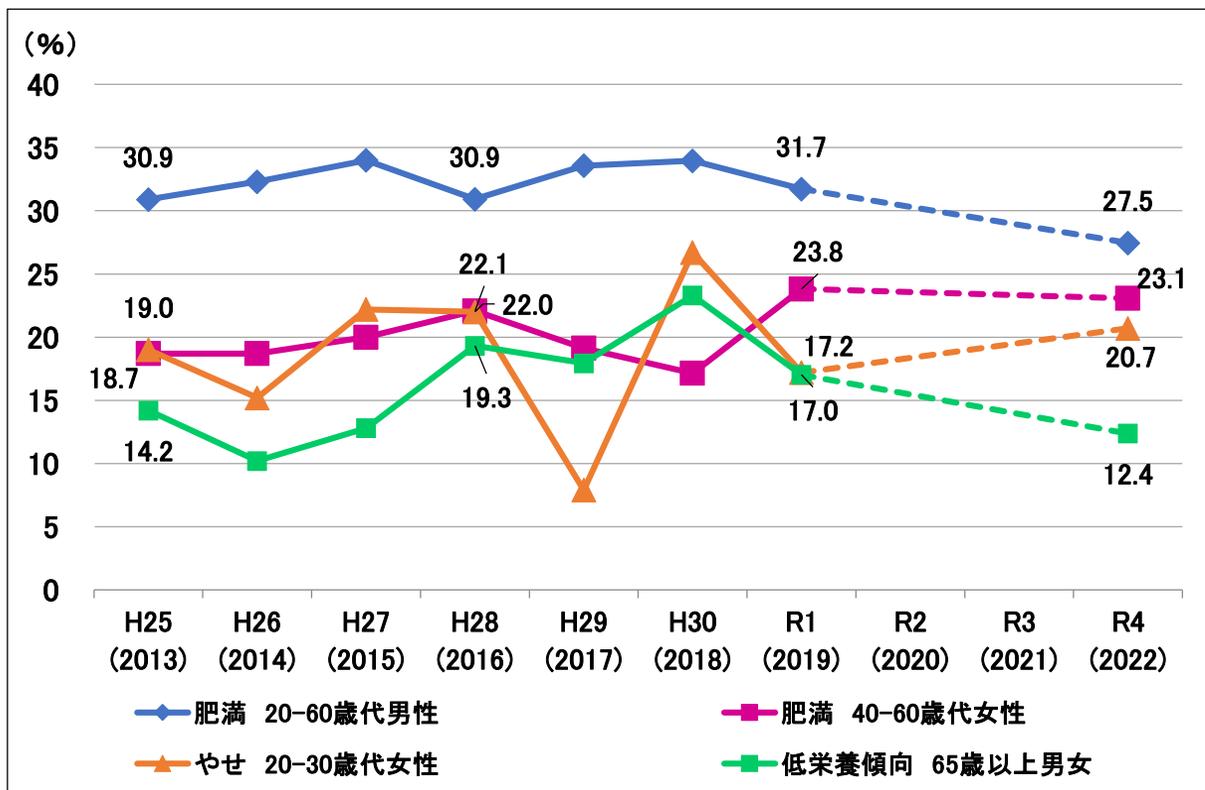
課題

- 65歳健康寿命、65歳平均寿命共に延伸しているが、65歳健康寿命と65歳平均寿命の差は変化がない。
- 県内二次保健医療圏の健康寿命の差は、計画策定値と比べ、男性0.03年、女性0.13年縮小した。

(2)生活習慣の改善①

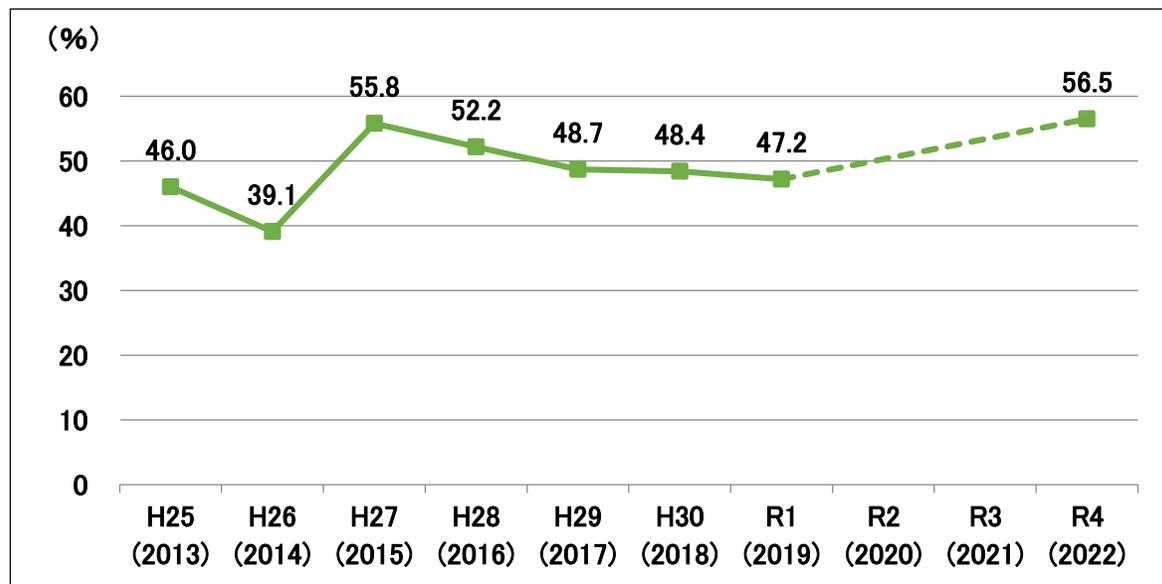
現状

【図表6 肥満・やせの者の割合 年次推移】



資料: 国民健康・栄養調査(埼玉県分)/県民の健康に関するアンケート

【図表7 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている者の割合】



<年齢調整値>

(単位: %)

	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
全体 (年齢調整値)	47.7	48.1	44.0	—	—	49.9

資料: 国民健康・栄養調査(埼玉県分)/県民の健康に関するアンケート

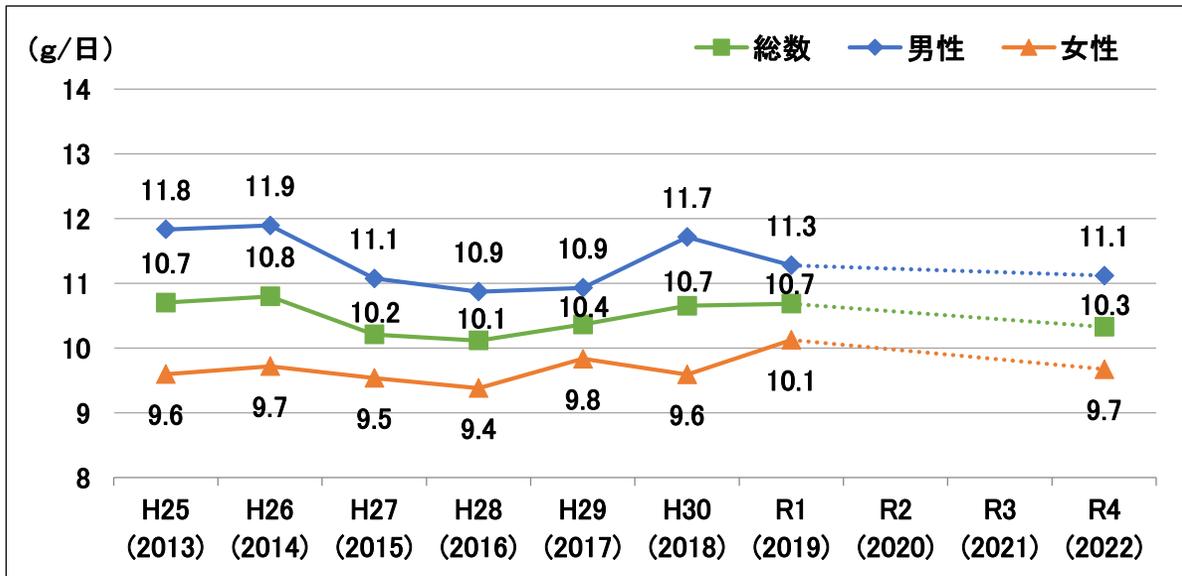
課題

- 20～60歳代男性の肥満の割合はほぼ横ばい、40～60歳代女性の肥満の割合はやや増加傾向。
- 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を食べている者の割合は、半数に留まっている。

(2)生活習慣の改善②

現状

【図表8 埼玉県の食塩摂取量の平均値の年次推移(20歳以上)】



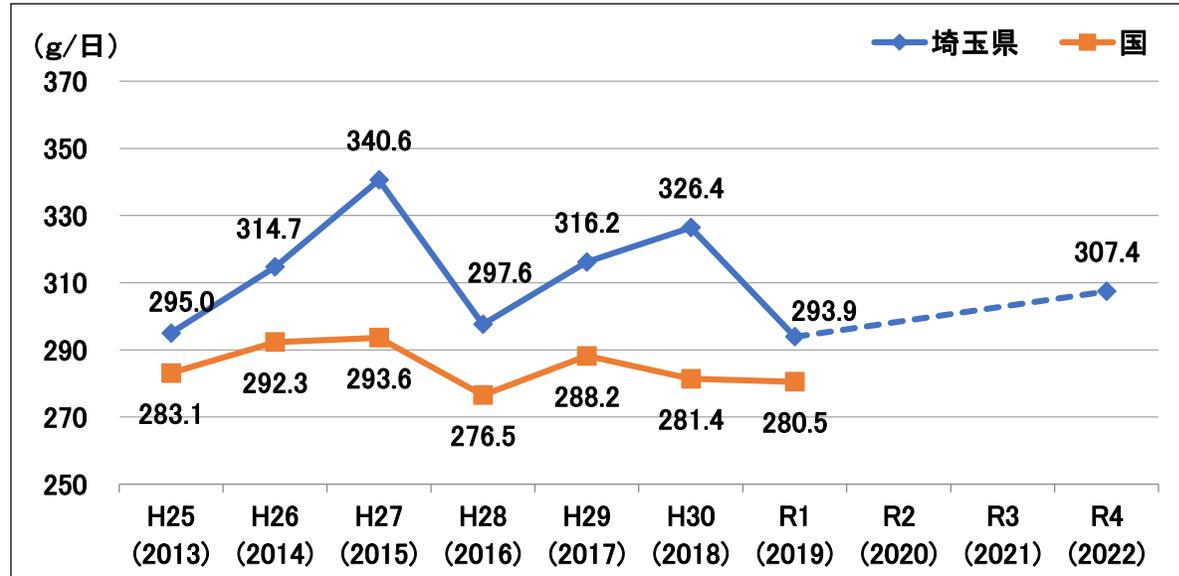
<年齢調整値>

(単位:g/日)

	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
全体 (年齢調整値)	10.0	10.3	10.7	10.5	—	—	10.2

資料:国民健康・栄養調査(埼玉県分)

【図表9 野菜摂取量の年次推移(20歳以上)】



<年齢調整値>

(単位:g/日)

	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
全体 (年齢調整値)	292.5	311.1	325.5	288.0	—	—	287.4

資料:国民健康・栄養調査(埼玉県分)

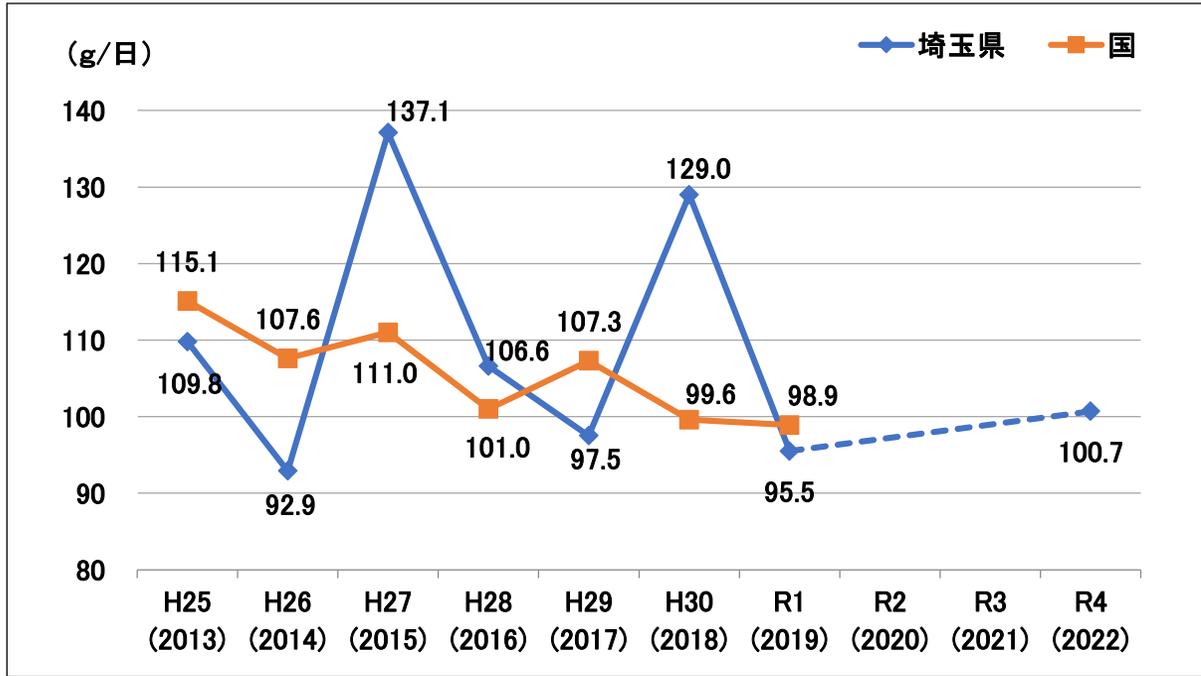
課題

- 食塩摂取量は、変化が見られない。
- 野菜摂取量は、目標値を下回っている。

(2)生活習慣の改善③

現状

【図表8 埼玉県の果物摂取量の平均値の年次推移(20歳以上)】



資料: 国民健康・栄養調査(埼玉県分)

<年齢調整値>

(単位:g/日)

	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
全体 (年齢調整値)	100.0	97.8	125.9	86.6	—	—	84.7

資料: 国民健康・栄養調査(埼玉県分)

【図表10 令和4年年齢別果物摂取量(20歳以上)】

(単位:g/日)

年齢層	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上
摂取量 (g/日)	51.6	44.1	49.7	81.9	98.4	136.0	153.2

資料: 令和4年国民健康・栄養調査(埼玉県分)

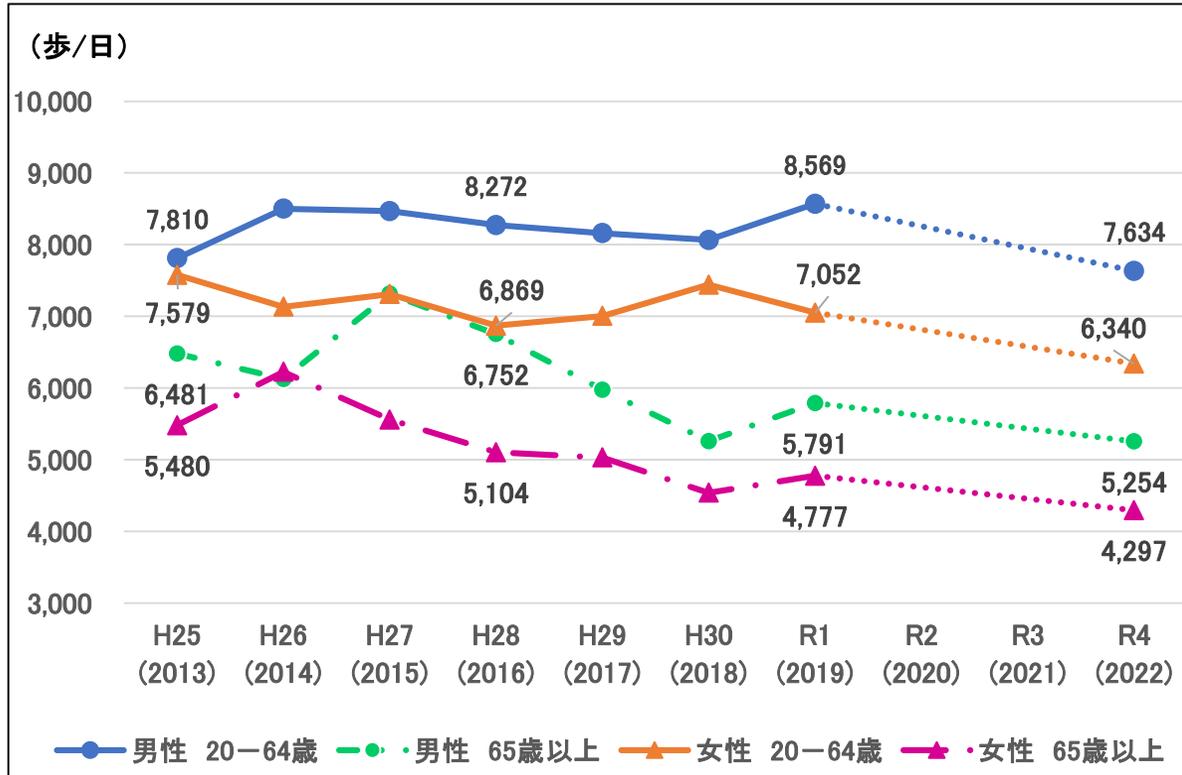
課題

- 果物摂取量は、減少傾向。
- 20～60歳代の果物摂取量は少ない。

(2)生活習慣の改善④

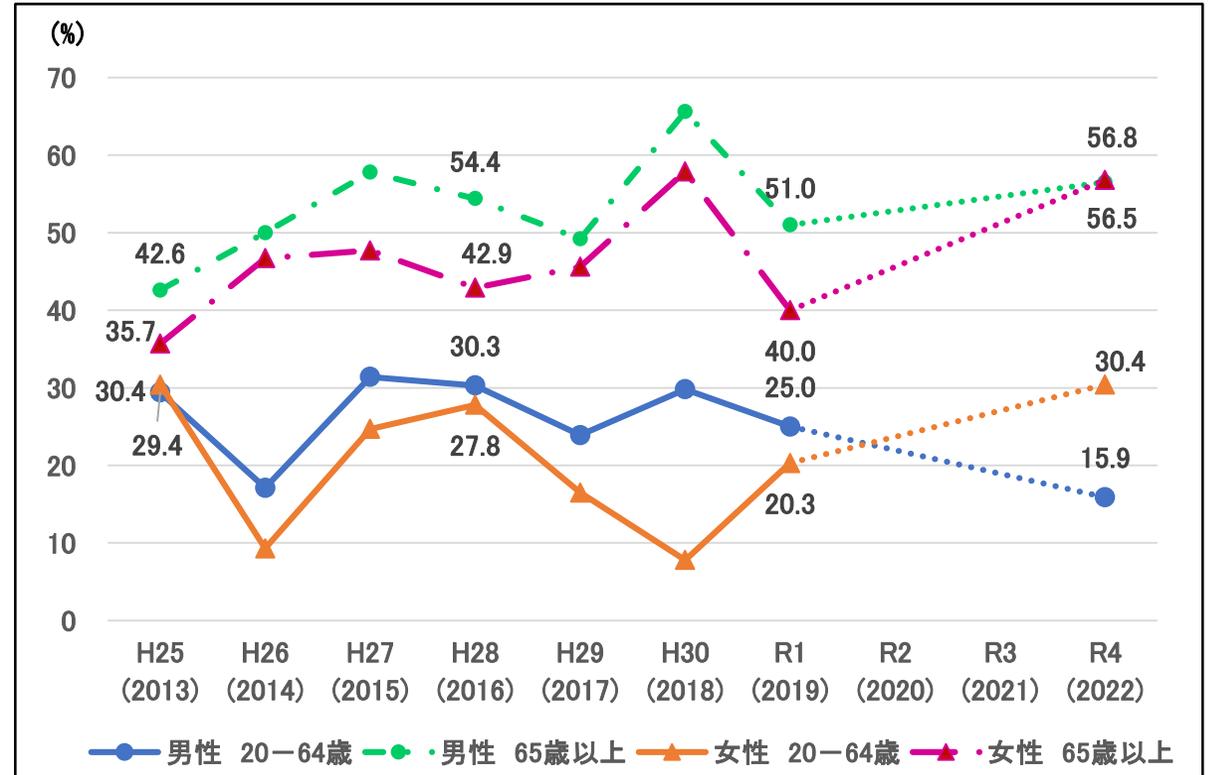
現状

【図表10 日常生活における歩数(20~64歳、65歳以上)】



資料:国民健康・栄養調査(埼玉県分)

【図表11 運動習慣者の割合(20~64歳、65歳以上)】



資料:国民健康・栄養調査(埼玉県分)/県民の健康に関するアンケート

課題

- 日常生活における歩数は全年齢で減少傾向。
- 運動習慣者の割合は、20~64歳が少なく、65歳以上は多い。

(3)生活習慣病（NCDs）の発症予防・重症化予防

現状

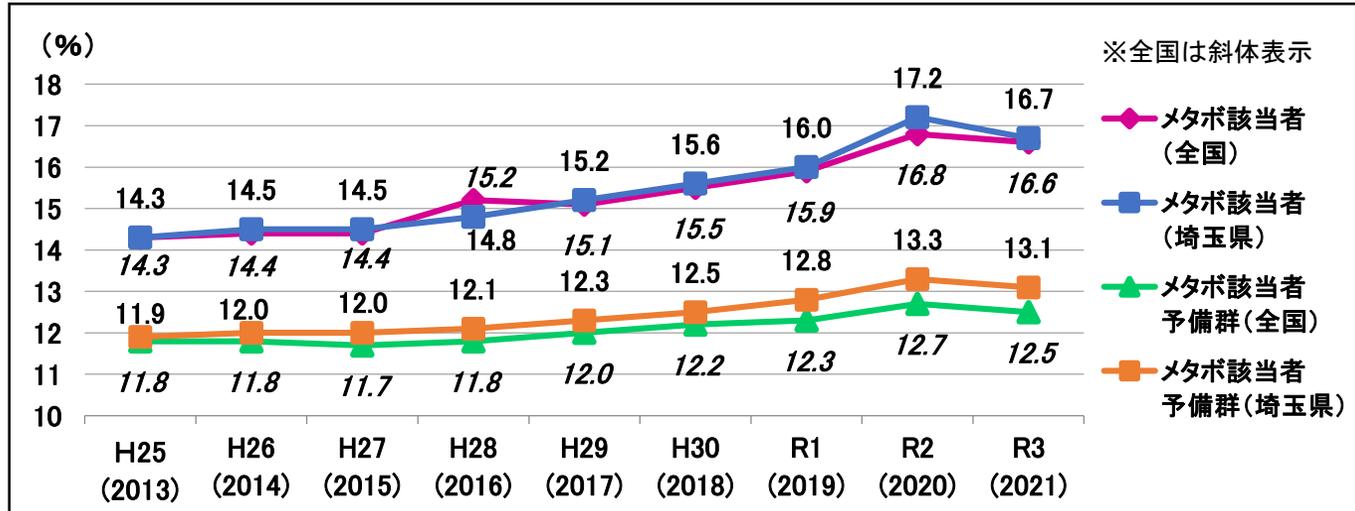
【図表12 糖尿病患者数の推移】

(単位:人)

	H16 (2004)	H19 (2007)	H22 (2010)	H25 (2013)	H28 (2016)	R1 (2019)
全国	3,755	4,171	4,860	5,450	5,737	6,183
埼玉県	212	227	246	318	330	360

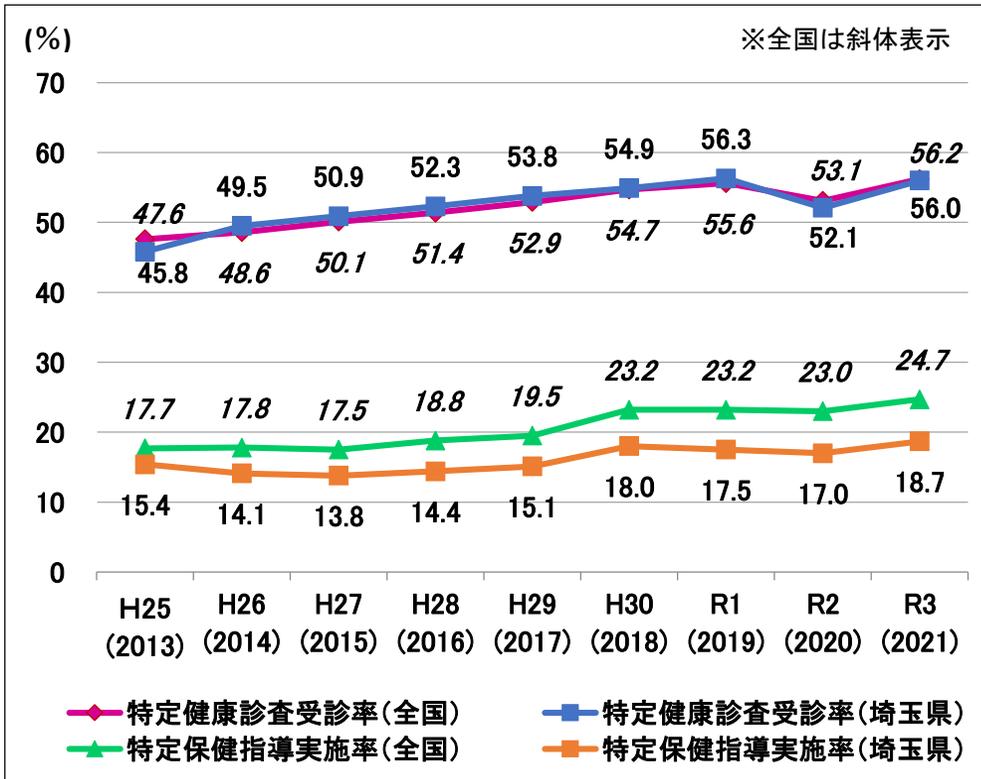
資料:国民生活基礎調査

【図表13 メタボリックシンドローム該当者・予備軍の推移】



資料:特定健康診査・特定保健指導・メタボリックシンドロームの状況(厚生労働省)

【図表14 特定健康診査の受診率及び特定保健指導の実施率の年次推移】



資料:特定健康診査・特定保健指導・メタボリックシンドロームの状況(厚生労働省)

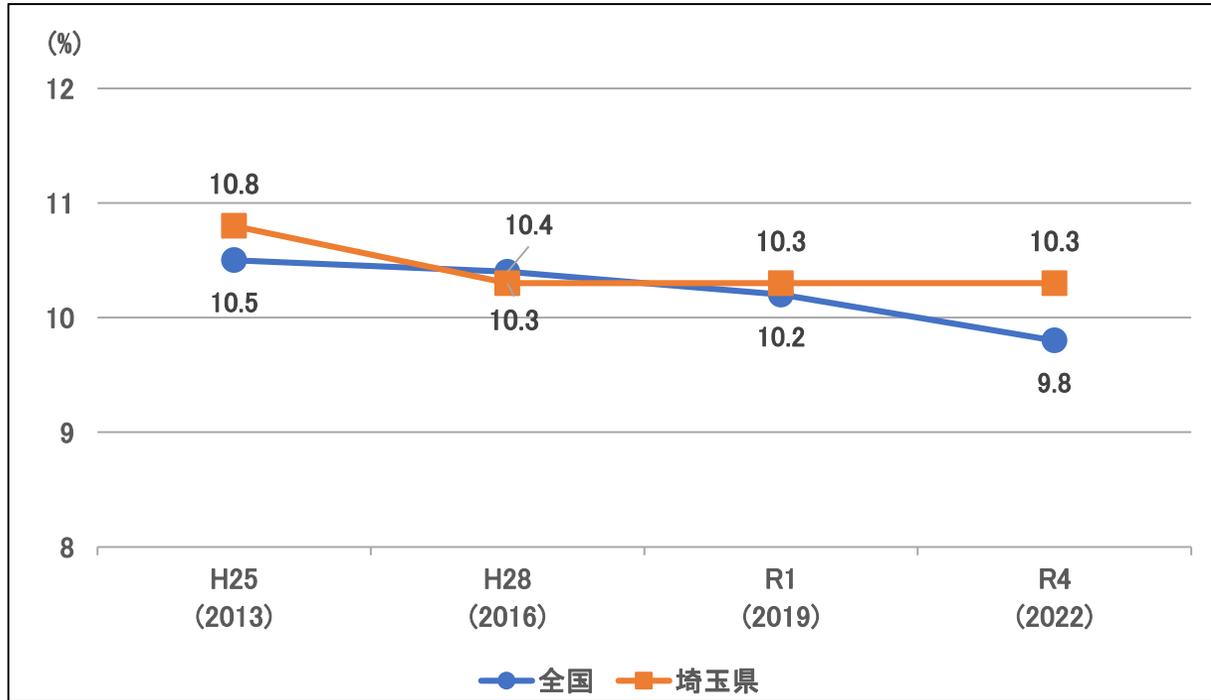
課題

- 糖尿病患者は増加傾向。メタボリックシンドロームの該当者、該当者予備軍も増加傾向。
- 特定健康診査の受診率は全国とほぼ同水準だが、特定保健指導の実施率は全国を下回っている。

(4)生活機能の維持・向上、 (6)自然に健康になれる環境づくり

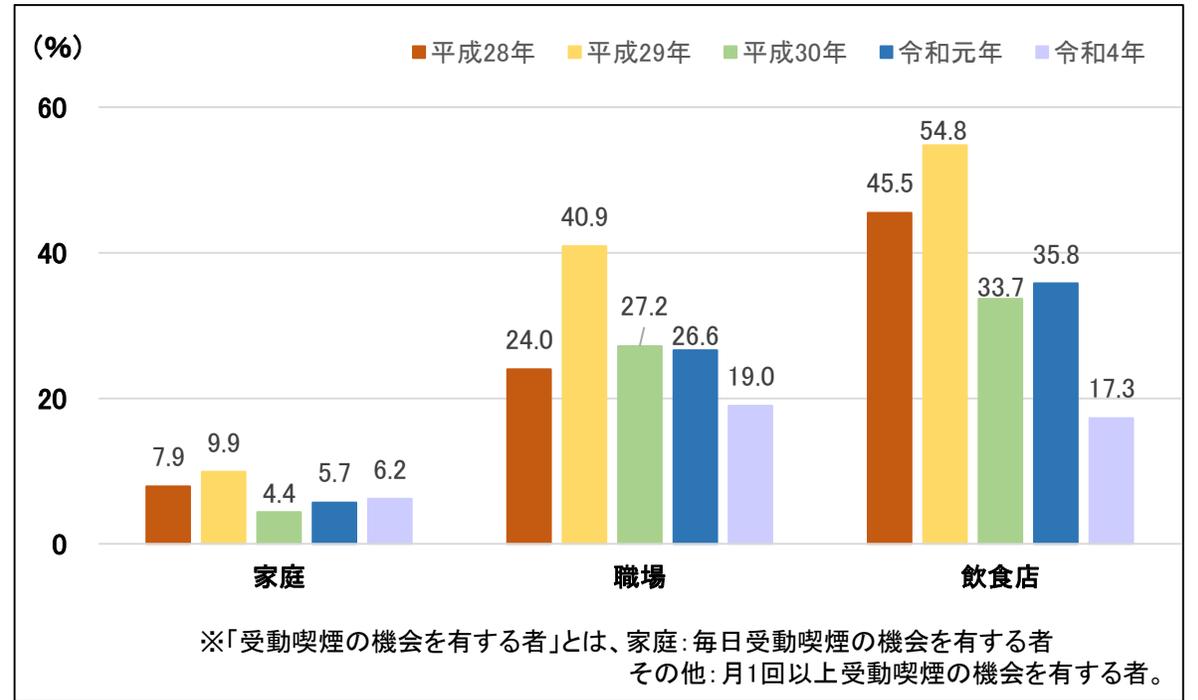
現状

【図表15 心理的苦痛を感じている者の割合】



資料: 国民生活基礎調査

【図表16 自分以外の人が吸っていたたばこの煙を吸う機会 (受動喫煙)があったと回答した者の割合の年次推移(0歳以上, 現在喫煙者を除く)】



※「受動喫煙の機会を有する者」とは、家庭: 毎日受動喫煙の機会を有する者
その他: 月1回以上受動喫煙の機会を有する者。

資料: 国民健康・栄養調査(埼玉県分)

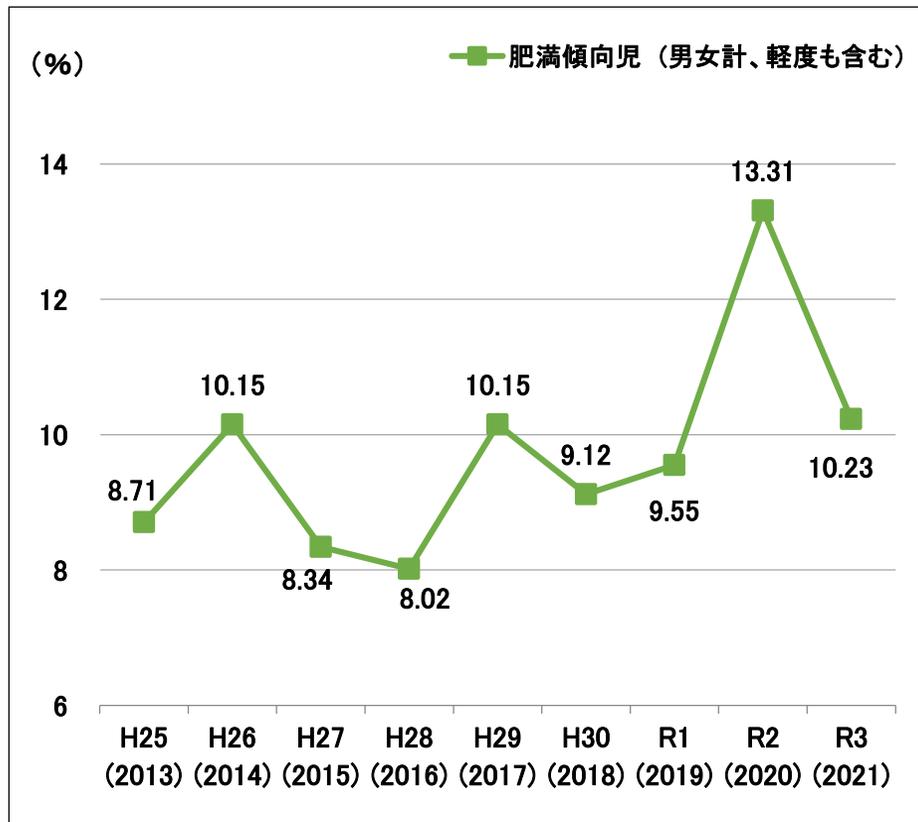
課題

- 心理的苦痛を感じている者は、変化がない。
- 法律の改正により受動喫煙は減っているが、家庭や職場等での受動喫煙の機会がみられる。

(8) ライフコースアプローチを踏まえた健康づくり

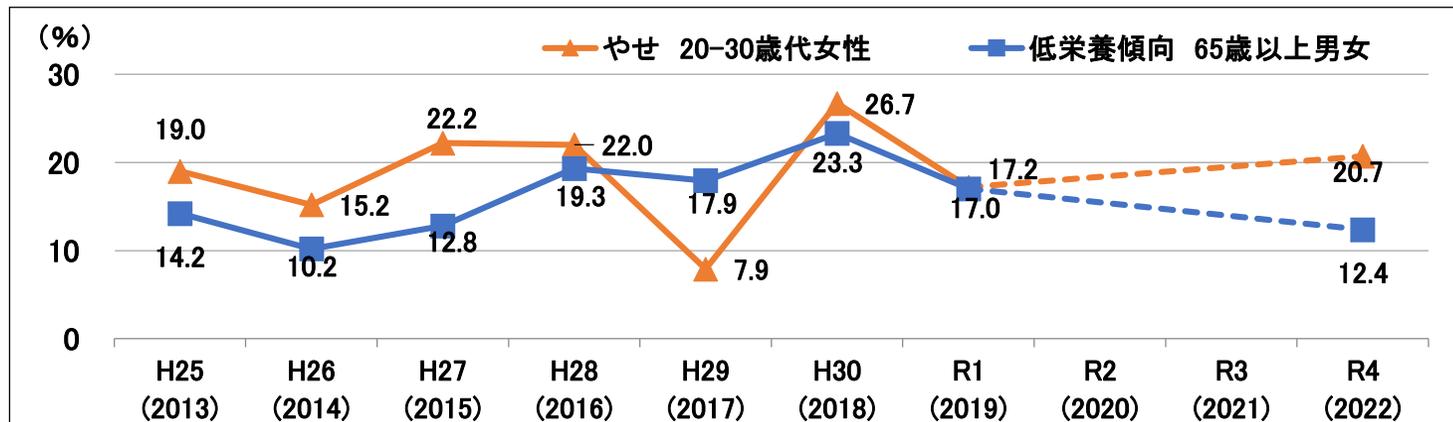
現状

【図表17 肥満傾向児の推移】



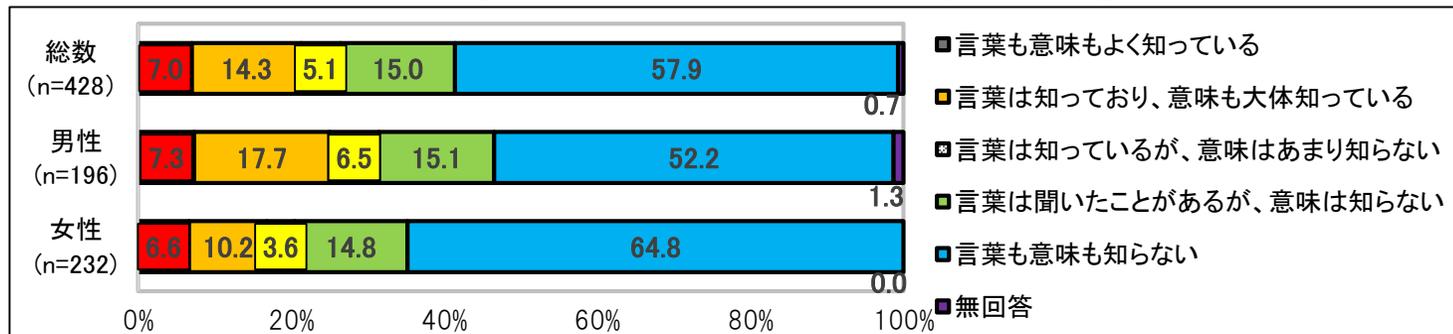
資料: 学校保健統計調査

【図表18 やせの者の割合の推移】



資料: 学校保健統計調査

【図表18 ロコモティブシンドロームの認知度(20歳以上)】



資料: 令和4年県民の健康に関するアンケート

課題

- 肥満傾向児は増加傾向。20～30歳女性のやせは横ばい。
- 低栄養傾向の高齢者は有意な改善はみられず、ロコモティブシンドロームの認知度は41.4%で半分に満たない。